



渚滑っ子

学校HPコード



教育目標：人間性豊かな児童の育成

～気付き、築く子どもの育成～

令和6年6月25日発行

文責：校長 木村 智史

情報を見極める素地づくり



子供が真剣になっている姿って、いいですね。

この時間、ここに集まった子供たちは、みんなこんな表情で、「いい眼」をしていました。

6月のある日、渚滑小学校図書室で、「読み聞かせ」がありました。

読み聞かせが始まる前は、期待をしている子供たちが雑談をしています。

でも、いざ始まると、一瞬で「絵本」の中にどっぷりと漬かっている子供たちです。

私はこの状況を見て、「やっぱり絵本の持つ力って凄いな…。」



と、改めて実感しました。

なかには、目を閉じて聞いている子もいます。「話だけで、想像して楽しもうと思います。」とのこと。

読み聞かせの楽しみ方は様々です。



以前、子育てに悩んでいる保護者に、「もう一度、読み聞かせをしてみたらどうですか？」とお話したことがありました。子供と繋がる手立てとしても有効ですから。

今月号は、「本を読むこと」について、学校図書司書「門井里佳子」さんにお話を聞きました。

本を手にとるための工夫



「門井さん、さすがですね。子供たちを引き込む読み聞かせ。いい雰囲気です。」

と話し始めると、照れくさそうに微笑んでいました。

『実は、私も本を読む子ではなかったんです…。』

とひとこと…。

でも、本から学ぶことは多いと感じてから、手に取るようになったとのこと。

だから、図書室の設営で気を付けていることは、「興味を引くように、見開きにして展示する」ことだそう。

読むことを求めるんじゃなく、「見る」
ことから始めてほしいんです。



そう話す門井司書の言葉通り、表紙を見開きにして展示している本が多いことに気がきます。



まずは、本を手に取り眺めること。

そして、開いて調べる、読むといった活動が始まります。

『分からなかったことが分かったり、現実で体験できない世界に入ることができたりすると嬉しいですね。』

と、本の魅力を話してくださいました。

読み聞かせには、季節を感じる本を選んでいるそうで、これからも四季がはっきりしている紋別に合った本を読み聞かせてくれることでしょう。

私は以前、「想像力のスイッチをいれよう」という5年生の国語教材を執筆した、ジャーナリストの「下村健一」さんとお話する機会がありました。

下村さんがおっしゃった言葉の中で印象的だった内容があります。



子供たちは、たくさんの媒体からたくさんの情報を得ることができるのですが、その情報を見極める教育が不足していると思うんです。

情報を正しく受け止めたり、受け流したり発信する教育が必要だと主張してました。スマホがあれば、どんな情報も手に入れることができます。それがあたかも「正解」「正義」であるかのように受け止めてしまいがちです。でも、一方的な受け取り、発信は危険であることは承知の沙汰。

ですから、情報教育の必要性を大人が理解することが重要であり、具体的な教育が必要です。

「便利なものは、使い方を間違えると人を傷付ける武器」になります。

「情報世界」を生きる子供たちに、確かな力を。

その素地を作る場所の一つとして「図書館」があります。

7月の主な行事予定

- 1日(月) 全校朝会
- 3日(水) 防犯教室
- 5日(金) 中学年よつば乳業工場見学
- 10日(水) 中学年港見学
- 19日(金) なぎさ2授業公開
- 22日(月) 大掃除習慣～25日まで
- 25日(木) 1学期終業式